

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

サービス推進課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	市民サービスの充実【持続】	
	施策 20	お客さまとの信頼関係の構築	
	取組 48	川崎の上下水道の魅力の情報発信	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民等に対し上下水道に関する様々な情報の発信を行うとともに、お客さまとの対話の機会を通じて上下水道へのニーズを的確に把握し、施策へ反映します。また、工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握を行います。		
取組の概要	公営企業として、水道利用者であるお客さまには、相互の信頼関係の下で適切なサービスを提供し、納得した上でその対価を負担していただくために、様々な広報・広聴活動を行う必要があります。また、工業用水道事業では、工業用水道利用者と相互の信頼関係を築くため、工業用水道利用者協議会等を通じて、工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握を継続的にを行います。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)	<ul style="list-style-type: none"> ・広報戦略の策定(令和4年度)及び更新(令和7年度) ・広報実施計画の策定 ・広報紙「かわさきの上下水道」、上下水道局ウェブサイト、上下水道局Twitter等による情報発信 ・夏休み水道・下水道教室、山北町交流事業、かわさき水まつり(みずみずフェア)、上下水道局作品コンクール等のイベントの実施 ・長沢広報施設「水とかがやく未来館」における見学案内の実施 ・入江崎広報施設「ワクワクアクア」における見学案内の実施 ・広報ウェブアンケート等による広聴の実施 ・工業用水利用者協議会幹事会・施設見学会への参加 ・定期的な予定使用水量の調査 		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所		
	変更理由		

計画(Plan)

今年度の取組内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 広報戦略及び広報実施計画の策定 ② 広報紙「かわさきの上下水道」、上下水道局ウェブサイト、上下水道局Twitter等による情報の発信 ③ 夏休み水道・下水道教室、山北町交流事業、かわさき水まつり、上下水道局作品コンクール等のイベントの実施 ④ 長沢広報施設「水とかがやく未来館」における見学案内の実施 ⑤ 入江崎広報施設「ワクワクアクア」における見学案内の実施 ⑥ 市民意識調査の実施 ⑦ 工業用水利用者協議会幹事会等での情報提供や意見交換 ⑧ 予定使用水量の調査
----------	---

実施結果 (Do)

取組内容の実績及び定性的成果

(上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)

- ①令和4年度末に広報・広聴に係る理念等を定めた広報戦略及び広報実施計画を策定しました。
- ②広報紙「かわさきの上下水道」については、紙面構成の改良を図りながら年4回発行しました。上下水道局ウェブサイトは適宜更新及び改良、上下水道局Twitterは発信内容の見直しや発信回数を増加し、魅力的な情報発信を行いました。
- ③コロナ禍における制限を踏まえつつ、夏休み水道・下水道教室、山北町交流事業、かわさき水まつり、上下水道局作品コンクール・表彰式、生田オープン記念等のイベントを実施しました。
- ④コロナ禍における見学受入人数の制限の範囲の中で、長沢広報施設「水とかがやく未来館」における見学案内を実施しました。
- ⑤コロナ禍における見学受入人数の制限の範囲の中で、入江崎広報施設「ワクワクアクア」における見学案内を実施しました。
- ⑥3年に1回行う市民意識調査について、質問内容を精査した上で実施しました。
- ⑦工業用水道利用者協議会幹事会に参加し、工業用水道事業の現状、課題、工事内容、会計報告等について、情報提供や意見交換を行いました。工業用水道利用者協議会施設見学会に参加し、利用者の施設状況等について、情報共有を図りました。川崎工業振興倶楽部工業用水道分科会に参加し、工業用水道事業の現状、課題等について、情報提供や意見交換を行いました。
- ⑧工業用水道利用者大手10社に対して、ゴールデンウィーク、お盆休み及び年末年始の予定使用水量の調査を実施しました。

指標分類	指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
	説明										
1	説明		計画目標値	-							
			実績								
2	説明		計画目標値	-							
			実績								
3	説明		計画目標値								
			実績								
予算 決算 (単位： 千円)	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
		水道・工水・下水	予算額	58,351					58,351		
	繰越						0				
	予算額						0				
	決算額		52,989				52,989				
	水道・工水・下水	予算額					0				
繰越						0					
予算額						0					
決算額						0					

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分		3	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)	
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				市民意識調査の結果や令和4年度末に策定した広報戦略を踏まえ、お客さまに向け、求められている情報をさらに効果的に伝えることができる広報の検討を進め、上下水道に関する情報発信を行う必要があります。また、工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握は継続的に行う必要があります。
施策への貢献度	貢献度区分		A	施策の貢献度区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い			広報・広聴活動の充実を図ったことにより、お客さまから寄せられた広報紙に対するご意見やイベントにおけるアンケートから、一定程度、上下水道事業への理解を深めていただいたことがわかり、施策へ貢献したと判断できました。また、工業用水道利用者協議会幹事会等の場において、情報提供やニーズの把握などが行えたことから、施策へ貢献することができました。	

改善 (Action)

今後の取組の方向性	方向性区分		II	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了				広報紙、ウェブサイト、イベントの内容等、逐次見直しを図りながら、さらに魅力的な広報活動を行う必要があります。さらに、ウェブアンケート等によりお客さまの声を収集し、ニーズの的確な把握に努める必要があります。また、工業用水道利用者への情報提供やニーズの把握は継続的に行う必要があるため、引き続き実施していきます。

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	給水装置課
-----	-------

取組の概要					
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ 市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保 				
	10年間の方向性 市民サービスの充実【持続】				
	施策 20 お客さまとの信頼関係の構築				
	取組 49 適正な給水装置・排水設備工事の確保				
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	水道 給水装置工事は、上下水道局の指定を受けた指定給水装置工事事業者による施行が必要です。その指定給水装置工事事業者に対する講習や研修を実施することで、知識及び技術力の維持・向上を目指し、適正な工事の確保に繋がります。 下水道 排水設備工事は、神奈川県下水道協会が実施する排水設備工事責任技術者試験に合格し、川崎市で登録を受けた責任技術者が所属している、上下水道局の指定を受けた排水設備指定工事店による施行が必要です。排水設備工事責任技術者に対し、技術レベルの確保や関係法令等の最新動向の周知等を目的とした更新講習を毎年実施し適正な工事の確保につなげます。				
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> 新規に指定を受けた指定給水装置工事事業者には、工事を行う上での注意点や手続方法等の講習を実施します。 指定給水装置工事事業者が5年ごとに行う更新の際に、近年の関連法や基準の改正等を中心とした講習を実施します。 指定給水装置工事事業者の技術力の維持・向上を目的として、神奈川県内の水道事業者と共同で、3年ごとに研修会を実施します。 排水設備工事責任技術者が5年ごとに行う更新の際に、神奈川県下水道協会と締結している協定に基づき、排水設備工事責任技術者更新講習を実施します。 				
計画期間の取組内容 (R4～R7)	<ul style="list-style-type: none"> 指定給水装置工事事業者を新規で指定する際の講習を継続 指定給水装置工事事業者の指定期間を更新する際の講習を継続 指定給水装置工事事業者研修会を継続(次回は令和5年度、神奈川県内の水道事業者で共同開催予定) 排水設備工事責任技術者更新講習を継続 				
当初の計画からの変更箇所とその理由(取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	<table border="1"> <tr> <td>変更箇所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>変更理由</td> <td></td> </tr> </table>	変更箇所		変更理由	
変更箇所					
変更理由					

計 画 (Plan)	
今年度の取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 指定給水装置工事事業者を新規で指定する際の講習を実施します。 指定給水装置工事事業者の指定期間を更新する際の講習を実施します。 指定給水装置工事事業者研修会を令和5年度に開催するため、必要な準備を行います。 排水設備工事責任技術者に対し、神奈川県下水道協会との協定に基づき、技術レベルの確保や関係法令等の最新動向の周知等を目的とした更新講習を実施します。

実施結果 (Do)

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)	① 指定給水装置工事事業者を新規で指定する際の講習を実施しました。 ② 指定給水装置工事事業者の指定期間を更新する際の講習を実施しました。 ③ 指定給水装置工事事業者研修会を令和5年度に開催するため、必要な準備を行いました。 上記①-③の講習・研修の内容を見直し、充実させました。また、これらの取組によって、給水装置工事の施行における安全性、技術力の確保に寄与することができました。 ④ 排水設備工事責任技術者に対し、技術レベルの確保や関係法令等の最新動向の周知等を目的とした更新講習を実施したことにより、良好な排水設備工事の施行による下水道機能の確保に寄与することができました。
--	--

指標分類	指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位
	説明										
1	説明		計画目標値								
			実績								
2	説明		計画目標値								
			実績								
3	説明		計画目標値								
			実績								

事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)
予算 決算 (単位： 千円)	予算額					0	
	繰越					0	
	予算額					0	
	決算額					0	
	予算額					0	
	繰越					0	
	予算額					0	
	決算額					0	

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3

施策への貢献度	貢献度区分	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A

改善 (Action)


今後の取組の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	II

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

営業課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	市民サービスの充実【持続】	
	施策 20	お客さまとの信頼関係の構築	
	取組 50	水道料金・下水道使用料の公平かつ適正な徴収	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	お客さまが納得した上でその対価として水道料金等を負担していただくため、お客さまとの相互の信頼関係を構築し適切なサービスを提供できるよう、徴収業務等の適正な執行に取り組めます。		
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> 水道料金等の徴収等に係る業務受託者に対し、適宜指導等を行うとともに、職員の徴収業務関連知識の習得や実務能力の向上を図るため、引き続き研修会を実施します。 令和6年度に予定している水道料金等の徴収等に係る業務委託の更新にあたり、検針業務及び集金業務を引き続き円滑に実施できるよう委託仕様の検討や契約に向けた事務手続を計画的に進めるなど、適正に次期委託者を選定します。 徴収業務等を適切に執行するため、再構築後の上下水道料金等業務システムを安定的かつ効率的に運用します。 水道メーターの検針業務等を通じて、地域見守りネットワーク事業に引き続き協力します。 		
計画期間の取組内容 (R4～R7)	<ul style="list-style-type: none"> 水道料金等の徴収業務受託者に対する適切な指導等の実施 水道料金等の徴収業務における次期委託者の選定(5年に1回) 上下水道料金等業務システムの安定的かつ効率的な運用 徴収業務に関わる職員等への研修会の実施 地域見守りネットワーク事業への協力 		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所		
	変更理由		

計画(Plan)

今年度の取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 水道料金等の徴収業務受託者の各事業所に対し、適宜指導を実施します。 水道料金等の徴収業務の次期委託者選定に向けて契約内容の精査を実施します。 上下水道料金等業務システムの安定的な稼働のため、運用保守業務受託者と緊密に情報共有を図ります。 徴収業務に関わる職員等に対して関連知識の取得や実務能力の向上を図るための研修を実施します。 水道メーター検針業務等の業務受託者が生活困窮者を把握した場合の緊急通報を行うなど、福祉部局との連絡・連携体制の構築を図ります。
----------	--

実施結果 (Do)

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)	①水道料金等の徴収業務受託者の各事業所に対し業務検証を実施し、適宜指導を実施しました。 ②現在の契約仕様の精査をするともに、他都市に対してヒヤリング、契約内容の確認などを実施しました。 ③上下水道料金等業務システムの運用保守業務受託者から、定期的に運用報告を受けるとともに、運用保守業務受託者に適宜指導をすることで、上下水道料金等業務システムの状況を効率的に把握することができたことから、安定的に稼働させることができました。 ④徴収業務に関わる職員を対象とした債権管理研修を実施し、関連知識の習得や実務能力の向上を図りました。 ⑤水道メーター検針業務において、現地訪問時に異常発見に伴う緊急通報を行い、地域見守りネットワーク事業における福祉部局との連絡・連携を図りました。
--	--

指標分類	指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位
	説明										
1	説明		計画目標値	-							
			実績								
2	説明		計画目標値	-							
			実績								
3	説明		計画目標値								
			実績								

事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)
		水道	1,346,519				
	予算額	1,346,519				1,346,519	
	繰越	-	-	-	-	0	
	決算額	1,346,519				1,346,519	
	予算額					0	
	繰越					0	
	予算額					0	
	決算額					0	

(単位：千円)

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分	3	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		

施策への貢献度	貢献度区分	A	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		

改善 (Action)


今後の取組の方向性	方向性区分	II	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

サービス推進課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	市民サービスの充実【持続】	
	施策 21	お客さまの利便性の向上	
	取組 51	上下水道お客さまセンターの品質向上	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	お客さまから上下水道お客さまセンターに電話等で寄せられる、水道の使用開始や休止の受付、水道からの漏水、下水道の詰まりなど上下水道に関する一般的な問い合わせに対し、オペレーターが的確かつ迅速に対応することでお客さまの利便性が向上し、お客さまから寄せられる意見、要望等を活用することで市民サービスの向上が図られます。		
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> お客さまからのお問合せに的確かつ迅速に対応するため、業務マニュアルの更新やFAQ(よくある質問)の充実を図るとともに、オペレーターの運営管理やオペレーターを指導するスーパーバイザー等への定期的な研修を実施することにより、応答・対応時間の短縮などお客さまセンターの品質向上を図ります。 上下水道お客さまセンター等に寄せられる意見、要望等、お褒めの言葉等を局内で共有化し、水道メーターの検針業務等の委託会社の業務改善、ICT(情報通信技術)活用による各種届出の効率的な受付の検討を進めるとともに、職員の意識改革、モチベーションの向上につなげます。 上下水道お客さまセンターの業務を管理する職員の知識を継承するための研修を継続的に実施します。 		
計画期間の取組内容 (R4～R7)	<ul style="list-style-type: none"> 業務マニュアルの更新、FAQ(よくある質問)の充実 オペレーターの増員、スーパーバイザー等への定期的な研修の実施 お客さまから寄せられる意見、要望等の活用 ICT活用による各種届出の効率的な受付の実施 局職員の知識継承のための継続的な研修の実施 次期委託者の選定に向けた取組 		
当初の計画からの変更箇所とその理由(取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所		
	変更理由		

計画(Plan)

今年度の取組内容	<ol style="list-style-type: none"> ①システム改修による業務マニュアル更新を実施します。 ②お客さまセンターにて使用している、対応用FAQの登録内容を見直し、問合せに対し円滑に対応ができるよう整備します。 ③お客さまの声を各部に伝達し、改善及び検討等を実施します。 ④災害発生時のお客さまセンター受付対応の実効性を検証するための訓練を実施します。 ⑤局からお客さまセンター、スーパーバイザーへの業務研修を実施します。 ⑥上下水道お客さまセンターの知見を活用した局職員向けの受付業務研修を実施します。 ⑦システム改修により、料金システムへの各種届出の自動取込等を構築し、業務量軽減による負担低減に向けた取組を継続します。 ⑧次期委託契約の契約締結を行い、第3期お客さまセンター運営業務を開始します。
----------	---

実施結果 (Do)

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)	①業務マニュアルについて、料金システムの改修に伴う修正や各種マニュアルと整合を行い、更新箇所の洗い出しを行いました。 ②FAQについて、業務内容に合わせての修正や新規登録を行ったほか、カテゴリの見直し等を随時行いました。 ③業務改善等が図れるよう毎月寄せられるお客さまの声を集約し、局内共有しました。 ④災害時対応については、発災時にお客さまセンターが行うべき受電対応の整理を行いました。 ⑤次期受託者のスーパーバイザー全員を対象に、業務全般について、局職員による研修を実施しました。 ⑥上下水道お客さまセンターで実施している研修内容を局職員向けに修正・調整を行い、研修を実施しました。 ⑦Web口座データを料金システムへ自動取込する機能を構築し、業務量軽減による負担低減を図ることができました。 ⑧次期委託契約に向け、委託者の選定及び契約締結し、令和5年1月1日から第3期お客さまセンター運営業務を開始しました。
--	--

指標分類	指標名	目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位
1	説明	計画目標値	-	-						
		実績	-	-						
2	説明	計画目標値	-							
		実績								
3	説明	計画目標値								
		実績								

事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)
		水道・工水・下水	237,600				
予算額					0		
	繰越						
	予算額	223,575				223,575	
	決算額						
	繰越						
	予算額					0	
	繰越						
	予算額					0	
	決算額					0	

(単位：千円)

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分	3	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		・お客さまからの問い合わせが多様化しており、この問い合わせにオペレーターが的確かつ迅速に対応するためには、上下水道お客さまセンターのスーパーバイザーのスキルアップが引き続き求められます。また、迅速に対応できるよう、業務変更に合わせて業務マニュアル及びFAQの見直しを迅速に行う必要があります。 ・お客さまから寄せられる意見や要望等を活用し、市民サービスの向上につなげられるよう継続的に声を集約し、共有する必要があります。
施策への貢献度	貢献度区分	A	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		・上下水道お客さまセンターのスーパーバイザーへ業務全般の研修を実施し、的確かつ迅速に対応することで、お客さまの利便性向上に貢献しました。 ・お客さまから寄せられる意見や要望等を集約・共有することで業務改善につながり、市民サービスの向上に貢献しました。

改善 (Action)


今後の取組の方向性	方向性区分	II	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		上下水道局の総合受付窓口として、お客さまからの問合せに的確かつ迅速に対応するため、業務マニュアルやFAQの更新、スーパーバイザーへの研修を実施する等、引き続き、上下水道お客さまセンターの品質向上を図ります。

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

給水装置課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	市民サービスの充実【持続】	
	施策 21	お客さまの利便性の向上	
	取組 52	給水装置関連業務のオンライン化	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		<ul style="list-style-type: none"> お客さまからの問い合わせに対し迅速かつ正確に対応すること、適正かつ円滑な給水装置工事を確保すること及び、お客さまの個人情報を災害等から守ることを目的に、給水装置工事台帳を電子化します。 行政区管轄に捉われない窓口対応及び給水装置工事台帳情報の検索性向上によって応対時間の短縮化を図るため、給水装置工事台帳管理システムを導入します。 新たな生活様式や非接触型社会に対応するとともに、お客さまサービスの向上を図るため、給水装置関連手続をオンライン化します。 	
取組の概要		<ul style="list-style-type: none"> お客さまサービスの向上を図るために給水装置工事台帳を電子化します。 電子化した給水装置工事台帳データを有効活用するための管理システムを導入します。 お客さまサービスの向上を図るため、給水装置関連手続をオンライン化します。 	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		<ul style="list-style-type: none"> 給水装置工事台帳の電子化(令和4年度未完了) 給水装置工事台帳管理システムの導入(令和4年度未完了) 給水装置工事台帳管理システムの運用開始(令和5年度から) 給水装置関連手続に関するオンライン申請の導入(令和4年度未完了) オンライン手続の本格運用開始及び、利用促進(令和5年度から) 	
当初の計画からの変更箇所とその理由(取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)		変更箇所	
		変更理由	

計画(Plan)

今年度の取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 多摩区及び麻生区管内の給水装置工事台帳の電子化を完了し、平成30年度から実施してきた電子化業務を完遂します。 給水装置工事台帳管理システムを構築し、令和5年度からの運用開始に向けた準備を完了します。 給水装置関連手続のオンライン化について、令和5年度の本格運用開始に向けた準備を完了します。
----------	---

実施結果 (Do)

<p>取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)</p>	<p>① 給水装置工事台帳電子データ作成業務委託により、多摩区及び麻生区管内の電子化が完了し、平成30年度から実施してきた電子化業務を完遂しました。 ② 電子化した給水装置工事台帳のデータを有効に活用するため、給水装置工事台帳管理システムを導入しました。 ③ 給水装置関連手続きのオンライン化について、令和5年度の本格運用開始に向けた準備を完了しました。 上記①-③のDX化により、お客さまの利便性が向上しました。</p>
---	--

指標分類	指標名 説明		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	説明		計画目標値	-							
			実績								
2	説明		計画目標値	-							
			実績								
3	説明		計画目標値								
			実績								

事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)
		水道	41,668				
予算額	41,668				41,668		
繰越	0				0		
決算額	24,831				24,831		
予算 決算 (単位： 千円)	水道					0	
	予算額					0	
	繰越					0	
	決算額					0	

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分	3	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		・令和5年度から稼働する給水装置工事台帳管理システムを円滑に運用できるよう、管理する必要があります。 ・オンライン申請の利用を促進する必要があります。

施策への貢献度	貢献度区分	A	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		ICTの活用を適切に行うことで、お客さまの利便性及び市民サービスの向上を図れました。

改善 (Action)

今後の取組の方向性	方向性区分	I	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		・給水装置工事台帳管理システムを円滑に運用できるように管理していきます。 ・オンライン申請の利用が促進されるような取組を進めます。

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

営業課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	市民サービスの充実	
	施策 21	お客さまの利便性の向上	
	取組 53	新たなサービスの提供に向けた取組	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にした いか)	新たなサービスの検討やICTの活用を適切に行うことで、お客さまの利便性及び市民サービスの向上を図ります。		
取組の概要	料金徴収業務等における行政手続のオンライン化や水道スマートメーターの導入に向けた検討を行うとともに、工業用水道事業の自動検針記録計をICTを活用して更新していきます。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)	<ul style="list-style-type: none"> ・料金徴収における新たなサービスの導入について事業環境の変化やお客さまの利便性の向上などを考慮し、料金徴収における諸手続について検討を行います。 ・水道スマートメーターに関する課題や導入効果等の検証を行い、本市における導入のあり方について検討を行います。 ・工業用水道における現行システム(自動検針記録計)の安定的な運用及び保守を引き続き実施します。 ・工業用水道におけるシステム(自動検針記録計)の更新について第3庁舎への移転に合わせて、令和5年第1四半期までに機器製作等を行い、移転後は機器の設置及び通信試験を順次実施し、令和5年度第4四半期にシステムの本格的な運用を行います。また、更新に向け通信方法等について使用者と協議や調整を行い、最適な通信方法等について検討します。 		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所		
	変更理由		

計画 (Plan)

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・料金徴収における新たなサービスの導入について事業環境の変化やお客さまの利便性の向上などを考慮し、料金徴収における諸手続についてICT等の活用について検討を行います。 ・水道スマートメーターに関する課題や導入効果等の検証を行い、本市における導入のあり方について検討を行います。 ・工業用水道における現行システム(自動検針記録計)の安定的な運用及び保守を引き続き実施します。 ・工業用水道におけるシステム(自動検針記録計)の更新について第3庁舎への移転に合わせて、令和4年度に工事発注します。また、更新に向け通信方法等について使用者と協議や調整を行い、最適な通信方法等について検討を行います。
----------	--

実施結果 (Do)

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・料金徴収における新たなサービスの導入について事業環境の変化やお客さまの利便性の向上などを考慮し、料金徴収における諸手続についてICT等の活用について検討を行い、使用開始等の手続きや料金の支払いをスマートフォンで行える(仮称)お客さまアプリの導入に向けて予算化を図りました。 ・水道スマートメーターについて、水道技術研究センターが主催する「A-smratプロジェクト」への参加などを通じ実用性や課題等について情報収集を行い、本市において導入した場合の費用対効果等を整理しました。 ・工業用水道における現行システム(自動検針記録計)の安定的な運用及び保守を引き続き実施します。 ・工業用水道におけるシステム(自動検針記録計)の更新について庁舎移転延期に伴い、工事発注を令和5年度に変更し、「工水利用者協議会幹事会」において、事業スケジュールの見直しによる工期の変更について報告を行いました。また、更新に向け通信方法等について使用者と協議や調整を行い、全ての使用者において無線通信が可能となりました。
--	---

指標分類	指標名 説明	目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定 目標値	変更 目標値	単位
1	説明	計画目標値	-							
		実績								
2	説明	計画目標値	-							
		実績								
3	説明	計画目標値								
		実績								

事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)
		工水	0				
予算額					0		
繰越	-				0		
決算額	0				0		
予算 決算 (単位： 千円)	工水					0	
	予算額					0	
	繰越					0	
	決算額					0	

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分	3	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)お客さまアプリについてお客さまの利便性の向上に資するよう使い勝手がよく、また、業務の効率化が図られるよう適切にアプリ開発を行う必要があります。 ・水道スマートメーターの導入については、地方公営企業としての経済性の確保という側面と水道事業におけるDX化という社会的要請の側面のバランスを考慮して方向性を検討する必要があります。 ・工業用水道におけるシステム(自動検針記録計)の更新について第3庁舎への移転に合わせて工事発注を行い、令和5年度第4四半期にシステムの本格的な運用を行う予定でしたが、庁舎移転延期に伴い、運用開始を令和6年度第3四半期に見直しました。
施策への貢献度	貢献度区分	A	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)お客さまアプリの導入に向けた検討を行いICTの活用を推進することで、お客さまの利便性向上に寄与していることから、施策へ貢献できました。 ・工業用水道利用者に対し「自動検針記録計更新に伴う流量値確認方法に関する」アンケート調査を行い、使用者のニーズに合わせた運用方法の検討を行うことにより、施策へ貢献することができました。

改善 (Action)

今後の取組の方向性	方向性区分	I	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)お客さまアプリについてお客さまの利便性の向上に資するよう使い勝手がよく、また、業務の効率化が図られるよう適切にアプリ開発を行います。 ・水道スマートメーターの導入については、地方公営企業としての経済性の確保という側面と水道事業におけるDX化という社会的要請の側面のバランスを考慮して方向性の検討を進めます。 ・工業用水道におけるシステム(自動検針記録計)の更新について第3庁舎への移転に合わせて、移転後は機器の設置及び通信試験を順次実施し、令和6年度第3四半期にシステムの本格的な運用開始ができるよう目指します。 ・工業用水道について「自動検針記録計更新に伴う流量値確認方法に関する」アンケート調査結果に基づき、使用者のニーズに合わせた運用方法を決定します。

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室（国際事業推進）

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	国際展開の推進【環境】【持続】	
	施策 22	世界の水環境改善に向けた国際事業	
	取組 54	官民連携による国際展開	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	海外における水ビジネスを通じて市内企業の国際競争力の強化を図るとともに、世界の水環境改善へ貢献し、市民が川崎市を誇れるように川崎市のプレゼンスの向上を図ります。		
取組の概要	世界の水環境改善への貢献のため、かわさき水ビジネスネットワーク(かわBizネット)会員の海外での水ビジネス案件形成に向けた協力を進めます。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)	<ul style="list-style-type: none"> かわBizネット会員の海外での水ビジネス実現に向けたJICA調査事業等への協力 かわBizネット総会やセミナーの開催、国際展示会への出展等による情報発信の実施 		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所		
	変更理由		

計画(Plan)

今年度の取組内容	<p>①かわBizネット会員の海外での水ビジネス実現に向けたJICA調査事業等への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ベトナム/バリアン・ブンタウ省でのJICA「中小企業・SDGsビジネス支援事業～案件化調査(中小企業支援型)～」の事業実施支援 ベトナムでのJICA「中小企業・SDGsビジネス支援事業～ニーズ確認調査～」への会員の応募に対する支援(その提案が採択) その他、会員の海外展開スキームへの応募に対する支援 <p>②かわBizネット総会やセミナーの開催、国際展示会への出展等による情報発信の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> かわBizネット総会やセミナーでの情報発信 長沢浄水場内広報施設「水とかがやく未来館」及び入江崎水処理センター内広報施設「ワクワクアクア」における情報発信 第15回川崎国際環境技術展での情報発信
----------	--

実施結果 (Do)

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)	①ベトナム/バリア・ブンタウ省でのJICA「中小企業・SDGsビジネス支援事業～案件化調査(中小企業支援型)～」の事業実施支援については、計3回の現地渡航調査や本邦受入活動、報告書作成などを実施しました。また、新たにJICA「中小企業・SDGsビジネス支援事業～ニーズ確認調査～」への応募に対して支援を実施し採択されたほか、国土交通省「下水道技術海外実証事業」や環境省「アジア水環境改善モデル事業」への応募に対する支援を実施しました。 ②かわビジネスネットに関する情報発信については、かわビジネスネット総会やオンラインセミナー、第15回川崎国際環境技術展への出展のほか、各広報施設を通じて情報発信を実施しました。
--	---

指標分類	指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位
	説明										
1	活動指標	上下水道分野の国際展開活動件数		計画目標値	-	100	100	100	100		件/年
		説明	かわさき水ビジネスネットワークに関連した活動及び技術協力に関連した活動(取組55の活動)の合計件数	実績	104	111					
2				計画目標値	-						
		説明		実績							
3				計画目標値							
		説明		実績							

事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費(4年間)
		予算額	-	-	-	-	
繰越	-	-	-	-	0		
予算額	-	-	-	-	0		
決算額	-	-	-	-	0		
予算 決算 (単位： 千円)	予算額					0	
	繰越					0	
	予算額					0	
	決算額					0	

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3
施策への貢献度	貢献度区分	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A

改善 (Action)

今後の取組の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室（国際事業推進）

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	国際展開の推進【環境】【持続】	
	施策 22	世界の水環境改善に向けた国際事業	
	取組 55	技術協力による国際貢献	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	上下水道分野の技術協力を通じて世界の水環境改善へ貢献し、市民が川崎市を誇れるように川崎市のプレゼンスの向上を図ります。		
取組の概要	世界の水環境改善への貢献のため、水問題が生じている地域に対して、本市が主体的に継続的な技術支援を実施します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA技術協力プロジェクト等への専門家派遣の推進(ラオス) ・JICA草の根技術協力事業の推進(インドネシア・マカッサル市、バンドン市) ・海外からの研修生・視察者の受入れ 		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所		
	変更理由		

計画(Plan)

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ①JICA技術協力プロジェクトへの専門家派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・ラオス「水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU2)」において長期専門家及び短期専門家派遣の実施 ②JICA草の根技術協力事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア「マカッサル市における地下漏水対策実行能力向上プロジェクト」においてJICAとの契約交渉の実施及び事業の開始 ・インドネシア「バンドン市における排水水質改善に向けた能力向上プロジェクト」においてJICAとの契約交渉の実施 ③海外からの研修生・視察者の受入れ <ul style="list-style-type: none"> ・JICA等を通じた研修生・視察者の受入れの実施
----------	--

実施結果 (Do)

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)	①ラオス「水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU2)」については、令和2年11月から派遣されている長期専門家引き続き現地での活動を継続したほか、短期専門家については計4名の派遣を実施しました。さらに、現地セミナーへの参加のため職員3名の派遣を実施しました。 ②インドネシア「マカッサル市における地下漏水対策実行能力向上プロジェクト」については、JICAとの契約を締結し、キックオフセミナー及び現地調査のため職員計10名の派遣を実施しました。また、インドネシア「バンドン市における排水水質改善に向けた能力向上プロジェクト」については、JICAとの契約交渉を実施し、令和5年度早期の契約に向けて準備を進めました。 ③海外からの研修生・視察者の受入れについては、JICA等を通じて4件(25名)の受入れを実施しました。
--	--

指標分類	指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位
	説明										
1	説明		計画目標値	-							
			実績								
2	説明		計画目標値	-							
			実績								
3	説明		計画目標値								
			実績								

事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費(4年間)
	予算	決算					
予算 決算 (単位：千円)	予算額	-	-	-	-	0	-
	繰越	-	-	-	-	0	
	予算額	-	-	-	-	0	
	決算額	-	-	-	-	0	
	予算額					0	
	繰越					0	
	予算額					0	
	決算額					0	

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3
施策への貢献度	貢献度区分	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A

改善 (Action)

今後の取組の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室（行政改革・組織定数）

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	持続可能な経営基盤の確保【持続】	
	施策 23	持続可能な経営基盤の確保	
	取組 56	組織機構及び職員定数の見直し	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	お客さまが将来にわたりいつでも安心して上下水道サービスを利用できるよう、効率的・効果的な執行体制の整備を推進します。		
取組の概要	経営の効率化を推進するため、緊急時の即応体制などを考慮しながら、引き続き適正な職員定数の管理と効率的・効果的な組織整備を推進します。		
計画期間の取組内容 (R4～R7)	<ul style="list-style-type: none"> ・次期財務会計システムの構築を契機として実施する、財務事務の検証を踏まえた業務の効率化と執行体制の見直し ・危機管理業務等における技能職等の役割や必要人員の精査など、効率的・効果的な執行体制の検討 ・その他の事務・業務についても、執行体制の見直しを引き続き推進 		
当初の計画からの変更箇所とその理由（取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入）	変更箇所		
	変更理由		

計画（Plan）

今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ①財務会計システム機器のリース満了時期に合わせて、次期財務会計システムの構築を完了し、令和5年(2023)年1月に稼働 ②次期財務会計システムの稼働に伴う、現在、手作業で行っている予算決算資料作成や固定資産整理票データの重複入力などの事務のシステム化 ③自動車運転手及び下水作業員の平常時と危機事象時における役割や必要人員の精査等、効率的・効果的な業務執行体制の検討
----------	---

実施結果 (Do)

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)	①財務会計システム機器のリース満了時期に合わせて、次期財務会計システムの構築作業を完了し、令和5(2023)年1月に当該システムを稼働しました。 ②次期財務会計システムの稼働に伴い、従来、手作業で行っていた予算決算資料作成や固定資産整理票データの重複入力等について事務のシステム化を行いました。 ③自動車運転手及び下水作業員の平常時と危機事象時における役割や必要人員について精査し、効率的・効果的な業務執行体制の検討に着手したほか、令和5(2023)年度から、水道水質課の自動車運転手について、正規職員の代わりに会計年度任用職員を充てることと整理しました。
--	--

指標分類	指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位
	説明										
1	説明		計画目標値	-							
			実績								
2	説明		計画目標値	-							
			実績								
3	説明		計画目標値								
			実績								

事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)
		予算額					
予算 決算 (単位： 千円)	繰越					0	
	予算額					0	
	決算額					0	
	繰越					0	
	予算額					0	
	繰越					0	
	予算額					0	
	決算額					0	

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3 定年引上げなどの社会環境の変化を見据え、上下水道事業中期計画の取組を効率的かつ確実に推進するための組織整備と適正な職員配置が引き続き求められます。


施策への貢献度	貢献度区分	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A 次期財務会計システムの構築を完了し、令和5年(2023)年1月に当該システムを稼働し、予算決算資料作成や固定資産整理票データの重複入力などの事務のシステム化を行ったほか、水道水質課の自動車運転手を正規職員から会計年度任用職員へと切り替え、また、給水装置課のメーター管理担当課長や下水道使用料担当といった時限的組織の整理を行うなど、施策に貢献することができました。

改善 (Action)

今後の取組の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	I 社会環境の変化に対応しながら、上下水道事業中期計画を推進するため、引き続き必要な組織整備や職員配置に取り組み、効率的・効果的な執行体制の整備を推進します。

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	庶務課
-----	-----

取組の概要	
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ 市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保 
	10年間の方向性 持続可能な経営基盤の確保【持続】
	施策 23 持続可能な経営基盤の確保
	取組 57 人材育成の推進
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民生活に必要な不可欠な生活基盤を支える専門家集団としての使命果たすため、専門的な知識や高度な技術等の習得にも積極的な職員を育成するとともに、技術・技能の継承を図り、組織力の向上を図る取組を進めます。
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識・技術・技能を確実に継承するため、職場におけるOJT(職務遂行を通じた教育訓練)を中心に、OJTを発展させた職場研修や局研修を実施するほか、専門的な知識や高度な技術の習得等を図るため、積極的に派遣研修や国内外の貢献活動への職員派遣を実施します。 ・組織の方針や使命、行動指針等を職員一人ひとりに浸透させ、職員の学ぶ意欲を生かす人材育成環境の整備等により職員の改革意識や意欲の更なる向上を図り、専門的な知識・技術・技能を確実に継承しながら、人材育成を効果的に推進します。
計画期間の取組内容 (R4～R7)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識・技術・技能を確実に継承するため、職場におけるOJT(職務遂行を通じた教育訓練)を中心に、OJTを発展させた職場研修や局研修を通じた人材育成を推進 ・職員の意欲向上に関する取組として、局研修やオフサイトミーティングを実施 ・職員の改革意識に関する取組として、業務改善・研究発表会や職場提案などを実施 ・効果的に人材を確保するため、川崎市職員採用説明会やかわさきナビゲーターなどを通じて、川崎市上下水道局の魅力を積極的に発信する取組を推進
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所
	変更理由

計画 (Plan)	
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ①OJT、育成担当者制度及び職場研修を実施 ②一般研修及び専門的な研修プログラムを実施 ③外部団体等が主催する研修への参加 ④職場体験研修の実施と育成型ジョブローテーションによる職員のキャリア形成の推進 ⑤職場提案、業務改善・研究発表会を実施 ⑥オフサイトミーティングを実施

実施結果 (Do)

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)	①所属の先輩職員を、入庁2年目までの指導を担当する育成担当者として活用するなど、各所属におけるOJTを推進しました。 ②業務遂行上必要な基本的な知識及び技術の習得と実務能力の向上を軸とした研修を実施しました。 ③職務を遂行する上で必要な高度・専門的知識及び技術を習得させるため、外部が主催する研修へ参加しました。 ④職場体験研修の実施や育成型ジョブローテーションに取り組むことにより、職員のキャリア形成の推進に務めました。 ⑤職場風土改善のため、職場提案、業務改善・研究発表会等を実施しました。 ⑥開催予定時期に、新型コロナウイルス感染者の増加により対面式による研修の開催を見送りました。 上記項目に関して、令和3年度から実施している「人材育成の取組みの浸透度アンケート」では、回答項目を細分化し選択肢を増やした(令和3年度は3つ、令和4年度は4つ)ことにより、認知度は前年比で低くなったものの職員への浸透度をより詳細に把握することが可能となりました。
--	--

指標分類	指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位
	説明										
1	成果指標	人材育成の取組の浸透度		計画目標値	-	56.2	59.1	61.5	63	63	%
		説明	局内全職員へのアンケート調査(4項目)における、人材育成の取組の浸透が見られる回答割合の平均	実績	52.9	47.1					
2				計画目標値	-						
		説明		実績							
3				計画目標値							
		説明		実績							

事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費(4年間)
		予算額					
予算 決算 (単位: 千円)	繰越					0	
	予算額					0	
	決算額					0	
	繰越					0	
	予算額					0	
	繰越					0	
	予算額					0	
	決算額					0	

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分	3	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		人材育成は、中長期的な視点で取り組む必要があることから、人材育成基本方針における考え方や取組の方向性に基づきながら、これまでの成果や課題、その他人材育成に関わる様々な本市の計画と国の動向等を踏まえ、必要な見直し、拡充を図り、取組を推進していく必要があります。
施策への貢献度	貢献度区分	A	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		専門的な知識・技術・技能を確実に継承するため、人材育成の推進を進めてきたことから、施策へ貢献することができました。

改善 (Action)


今後の取組の方向性	方向性区分	II	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		本取組の実施については、継続することにより効果が出るものと考えており、基本的には引き続き現状の事業内容を維持することが適切と考えています。また、「人材育成の取組みの浸透度アンケート」の結果で認知度が低かった項目は、今後、重点的に対応し、併せて局研修についても職員にとってより効率的・効果的なものになるよう、改善しながら継続していきます。

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課

情報管理課

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	持続可能な経営基盤の確保【持続】	
	施策 23	持続可能な経営基盤の確保	
	取組 58	デジタル化の推進	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	デジタル化の推進により、お客さまサービスの向上や業務の効率化が図られるとともに、新しい生活様式を踏まえた持続可能なサービス提供・事業運営を行います。		
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> ICTにおける技術革新の急速な進展等による環境変化を的確に捉え、更なるお客さまサービスの向上や事業運営の効率化、働き方・仕事の進め方改革の推進に向け、適切なシステム導入や情報セキュリティ対策を継続して実施していきます。 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、非接触を念頭に置いたお客さまサービスへの転換や業務継続性の向上など、引き続きスピード感を持ってデジタル化を推進していきます。 		
計画期間の取組内容 (R4～R7)	<ul style="list-style-type: none"> 局内における情報化施策の推進 各業務システムの安定的・効率的な運用管理 情報セキュリティ対策の徹底 デジタルファーストの行政サービスの提供 行政手続きのオンライン化を推進します。 市役所内部のデジタル化の推進 テレワークの推進、ペーパーレス環境の実現、庁内会議のオンライン化を推進します。 		
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所		
	変更理由		

計画(Plan)

今年度の取組内容	<p>①情報化施策の推進・システムの運用管理・セキュリティ対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 局内における情報化施策の推進 各業務システムの安定的・効率的な運用管理 情報セキュリティ対策の推進 <p>②行政手続きのオンライン化</p> <ul style="list-style-type: none"> 給水装置・排水設備工事関連業務、水道使用に関する業務、公共下水道接続に関する業務などにおける簡易な電子申請サービスによる行政手続きのオンライン化 法人認証や大容量データのやり取りが必要な行政手続きの次期電子申請システム「オンライン手続かわさき(e-KAWASAKI)」による行政手続きのオンライン化 <p>③テレワークの推進、ペーパーレス環境の実現、庁内会議のオンライン化</p> <ul style="list-style-type: none"> テレワーク、紙削減・ペーパーレス、オンライン会議の推進
----------	---

実施結果 (Do)

取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)	①情報化施策の推進・システムの運用管理・セキュリティ対策の徹底 これまでの取組と同様に、局内の情報化計画及びシステム導入に関する評価・調整を適切に実施した上で、計画的に情報化を推進しました。 ②行政手続のオンライン化 ・令和4年度末までに電子申請が可能な手続は全てオンライン化を実施することができました。 ③テレワークの推進、ペーパーレス環境の実現、庁内会議のオンライン化 ・新しい生活様式を踏まえたデジタル化の取組について、市長事務部局と連携して取組を推進しました。
--	---

指標分類	指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位
	説明										
1	説明		計画目標値								
			実績								
2	説明		計画目標値	-							
			実績								
3	説明		計画目標値								
			実績								

事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)
水道・工水・下水	予算額					0	
	繰越					0	
	予算額					0	
	決算額					0	
	予算額					0	
	繰越					0	
	予算額					0	
	決算額					0	

(単位：千円)

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分	3	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		上下水道局DX推進プログラムに基づき、情報セキュリティの確保を図りながら、情報環境の整備、システム導入及び安定的・効率的な運用を図るとともに、新しい生活様式を踏まえたデジタル化の取組について推進しました。 また、各情報システム導入計画の評価を行うことで、局における情報化施策を統一的、効果的かつ効率的に推進することができました。

施策への貢献度	貢献度区分	A	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		電子申請が可能な手続きは全てオンライン化を実施したことにより、業務効率化、サービス向上に貢献することができました。

改善 (Action)

今後の取組の方向性	方向性区分	I	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		業務を実施する上で情報システムは欠かせないものであるため、取組を継続していきます。また、市情報系NWのインターネット系移行等への影響を考慮した更なるセキュリティ向上対策をはじめ、デジタル技術の進展や新しい生活様式を踏まえたデジタル化の取組などに合わせて、当局の情報環境を改善していきます。

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課	経営戦略・危機管理室
-----	------------

取組の概要	
施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ 市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保 
	10年間の方向性 持続可能な経営基盤の確保
	施策 23 持続可能な経営基盤の確保
	取組 59 資産の有効活用
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	上下水道事業の施設用地、管路用地等の局資産の有効活用を図ることにより、収益の確保に貢献します。
取組の概要	局資産の有効活用を図ることにより、収益の確保に貢献していくため、用地等の貸付けによる有効活用や再生可能エネルギー創出に向けた取組を推進します。
計画期間の取組内容 (R4～R7)	<ul style="list-style-type: none"> ・収益確保に向けた用地等の貸付けによる有効活用の推進 ・施設上部や低未利用の状態にある土地等の貸付けによる有効活用の推進 ・生田浄水場や入江崎水処理センター用地の有効活用に関する取組の推進 ・再生可能エネルギー創出に向けた取組の推進 ・資産を有効活用するPPAモデル等を適用した太陽光発電などによる再生可能エネルギー電力の導入に向けた検討の推進
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所
	変更理由

計 画 (Plan)	
今年度の取組内容	①民間事業者等への用地等の貸付けなどを継続実施 ②自動販売機設置スペースの入札を行い、一時貸付け(5年間)を実施 ③さく井跡地の有効活用について、民間事業者へのヒアリング等の実施及び方針の整理 ④生田浄水場用地において整備を進めている、生田ふれあい広場等の供用開始 ⑤末吉配水池上部や入江崎水処理センター西系施設有効活用について、関係部署と有効活用に向けた協議・調整を実施

実施結果 (Do)

<p>取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)</p>	<p>①民間事業者等への用地等の貸付けなどを継続実施しました。 ②令和3年度に引き続き、資産の有効活用を図るため、施設内や用地の一部において、自動販売機設置スペースの入札を行い、一時貸付け(5年間)契約を締結したほか、月極駐車場など民間事業者への土地の有償貸付けなどを継続実施しました。 ③さく井跡地について、民間事業者へのヒアリング等を実施した上で、有効活用に向けた方針を整理しました。 ④生田浄水場用地の有効利用の取組として市が整備を進めていた生田ふれあい広場・多目的広場や株式会社川崎フロンターレが整備を進めていたAnkerフロントタウン生田について、令和5年3月に供用開始しました。また、それに合わせて歩行者等の安全に配慮するため、用地の一部を利用して歩道の拡幅整備を行いました。 ⑤末吉配水池上部や入江崎水処理センター西系施設上部の有効活用について、太陽光発電を導入する方針を令和5年2月に決定しました。</p>
--	---

指標分類	指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位
	説明										
1	成果指標	資産の有効活用の収益額		計画目標値	-	9.1	9.1	9.1	9.1	-	億円
		説明	資産の有効活用の取組(継続・新規)を実施することで得られる収益の決算額の推移をみることで、有効活用による財政効果を測るもの	実績	8.5	9.3					
2				計画目標値							
		説明		実績							

事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費(4年間)
		予算 決算 (単位: 千円)	予算額				
繰越							
決算額							
決算額							

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分	3	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載)
	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った		持続可能な経営基盤を確保するため、継続的に収益確保を図っていく必要があります。
施策への貢献度	貢献度区分	A	施策の貢献度区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い		貸付け等を行うことにより、成果指標である「資産の有効活用の収益額」の目標を達成し、水道事業、工業用水道事業及び下水道事業の収益確保に貢献することができました。

改善 (Action)

今後の取組の方向性	方向性区分	I	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了		用地等の貸付けによる有効活用を推進し、収益確保に貢献するため、今後も民間事業者等への使用許可等を実施するとともに、末吉配水池上部など更なる資産の有効活用に向けた取組を継続します。

令和4年度 中期計画評価シート【取組】

所管課 経営戦略・危機管理室〔経営戦略〕

取組の概要

施策体系上の位置づけ	基本目標Ⅲ	市民サービスの充実と持続可能な経営基盤の確保	
	10年間の方向性	持続可能な経営基盤の確保	
	施策 23	持続可能な経営基盤の確保	
	取組 60	財政基盤の強化に向けた検討	
取組の対象 (事業の対象となる人、物) 取組の目的 (対象をどのような状態にしたいか)		水道、工業用水道、下水道の各事業会計において、適正な料金・使用料のあり方や財源確保、資金の活用方法を検討することで、持続可能な経営基盤の確保を図ります。	
取組の概要		将来的に人口減少などによる水需要の減少や、老朽化した施設の更新などによる事業費の増加が見込まれています。そのような将来の事業環境を見据え、適正な水道料金・下水道使用料のあり方や適切な資金の活用方法を検討するとともに、老朽化した施設の更新のため、財政的な検証を踏まえた効率的・効果的な計画を検討します。	
計画期間の取組内容 (R4～R7)		<ul style="list-style-type: none"> ・適正な料金・使用料体系のあり方の検討 ・財源の確保、資金の活用方法に関する検討 	
当初の計画からの変更箇所とその理由 (取組の概要、計画期間の取組内容や計画目標値を変更して進捗管理している場合に記入)	変更箇所		
	変更理由		

計画(Plan)

今年度の取組内容	<p>①工業用水道事業について、工業用水道利用者の将来の水需要を把握し、財政基盤の強化に向け、施設更新計画と料金制度を検討します。</p> <p>②効果的な資金調達の方法や、累積資金の活用方法を検討します。例えば、水道事業会計における法定耐用年数未済での借入れ及び借換えや、公的資金以外の民間等資金からの調達を組み合わせること等を検討し、工業用水道事業会計及び下水道事業会計も含めた令和5年度以降における企業債の発行方法等を検討します。また、累積資金の効果的な活用方法について、財政局資金課等と調整しながら検討を進めます。</p>
----------	---

実施結果 (Do)

<p>取組内容の実績及び定性的成果 (上記「今年度の取組内容」に対し、目標を上回って達成した場合、又は、目標を下回った場合は、その理由も記載)</p>	<p>①工業用水道事業の施設更新及び料金制度のあり方について検討を行いました。4月に川崎市上下水道事業経営審議委員会へあり方について諮問を行い、検討資料を作成して委員会や部会で議論していただくことで、3月に答申を受領することができました。</p> <p>②企業債の発行方法等について、水道事業会計及び工業用水道事業会計については、これまで公的資金からの借入れをメインに行っていましたが、将来の金利上昇リスク等を考慮しながら、民間等資金を活用した満期一括償還による借入れ(借換え有)を組み合わせたこととしました。なお、水道事業会計における公的資金による借入れを元金均等償還に変更することとしました。また、下水道事業会計においては、公的資金による借入れについては、近年の資金状況の改善を勘案して元金均等償還・据置期間2年に変更することとしました。</p> <p>累積資金の効果的な活用方法について、財政局資金課や会計室と調整しながら検討を進めました。</p>
--	---

指標分類	指標名		目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	策定目標値	変更目標値	単位
	説明										
1	説明		計画目標値	-							
			実績								
2	説明		計画目標値	-							
			実績								
3	説明		計画目標値								
			実績								
予算 決算 (単位： 千円)	事業	予算・決算	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	合計	計画事業費 (4年間)			
		予算額	-	-	-	-	0	-			
	繰越	-	-	-	-	0					
	予算額	-	-	-	-	0					
	決算額	-	-	-	-	0					
		事業	予算額					0			
			繰越					0			
		予算額					0				
決算額						0					

評価 (Check)

今年度の取組内容に対する達成度	達成度区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った	3	実施結果等を踏まえた課題(事業を取り巻く社会環境の変化も含めて記載) 原油価格・物価高騰の影響により、動力費等の費用が高騰していることから、今後も影響について注視していく必要があります。 企業債の発行方法等については、新しい運用の開始後においても、毎年度、社会情勢等を注視しながら必要に応じて見直しを実施していくことが求められます。また、効果的な資金運用について、引き続き関係機関との調整を踏まえながら検討を継続します。
	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	施策の貢献度区分を選んだ理由 工業用水道事業の施設更新及び料金制度のあり方の検討、効果的な資金調達方法の整理、累積資金の活用を検討したことにより、財政基盤の強化に貢献することができました。

改善 (Action)

今後の取組の方向性	方向性区分 I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 取組規模拡大 IV. 取組規模縮小 V. 取組廃止 VI. 取組終了	II	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 今後の人口減少などによる水需要の減少や、老朽化した施設の更新については中期計画策定時から見込んでいたが、原油価格・物価高騰という新たな経営環境の変化が生じています。このため、財源と必要な事業費のバランスについて改めて精査を行いながら、財政基盤の強化に向けた検討を進めていきます。
------------------	--	-----------	---